

大学ポートレート運営会議（第6回） 議事要旨

1. 日 時 平成29年2月27日（月） 10:00～12:00

場 所 学術総合センター11階 1112会議室

2. 出席者

[委員] 岡本委員、奥野委員、相良委員、鈴木委員、田中委員、原田委員、日高委員、村上委員、水戸委員、木谷国立大学協会常務理事（山極委員代理）

[主査] 小林大学ポートレートステークホルダー・ボード主査

[オブザーバー] 堀野高等教育政策室長、根橋高等教育政策室室長補佐（以上、文部科学省）

[事務局] 武市大学ポートレートセンター長、井田大学ポートレートセンター教授、鎌塚評価事業部長、金大学ポートレートセンター事務室長（以上、大学改革支援・学位授与機構）、谷地私学経営情報センター長（日本私立学校振興・共済事業団）

3. 議 題

- (1) 大学ポートレートステークホルダー・ボードからの意見について
- (2) 大学ポートレートウェブサイトのモバイル端末対応について
- (3) 大学ポートレートウェブサイトの一覧機能追加について
- (4) 大学ポートレートウェブサイト（国際発信版）の公表画面について
- (5) その他

4. 配付資料

- 資料1 大学ポートレート運営会議（第5回）議事録（案）
- 資料2 大学ポートレート運営会議委員名簿
- 資料3 平成28年度大学ポートレートステークホルダー・ボード概要
- 資料4 大学ポートレートウェブサイトのモバイル端末対応について（報告）
- 資料5 大学ポートレート・一覧機能の追加について（案）
- 資料6 大学ポートレートウェブサイト（国際発信版）の公表画面について（案）
- 資料7 大学ポートレートウェブサイト（国際発信版）公表画面階層（案）
- 資料8 大学ポートレート参加大学数
- 資料9 大学ポートレートアクセス数（ページビュー数・訪問回数）調査

参考資料1 大学ポートレートステークホルダー・ボード委員名簿

参考資料2 平成28年度大学ポートレートステークホルダー・ボード
黒田学園長配付資料（抜粋）

参考資料3 平成28年度大学ポートレートステークホルダー・ボード
小林浩氏配付資料

まず、委員の任期が新しくなったことに伴い、新委員として奥田吾朗委員及び奥野武俊委員の紹介があったのち、委員の互選により、議長を鈴木委員、副議長を相良委員が務めることとなった。その後、前回議事録の確認ののち、議題について協議が行われた。主な協議内容は、次のとおり。

(1) 大学ポートレートステークホルダー・ボードからの意見について

小林主査より、資料3及び参考資料1～3に基づき、大学ポートレートステークホルダー・ボード（以下、ボード）にからの意見について報告が行われた。小林主査からは、金沢工業大学の黒田壽二学園長・総長及びリクルート「カレッジマネジメント」編集長の小林浩氏からの意見聴取を踏まえ、ボード委員及び出席者から出された意見について説明があり、一覧機能の充実について改めて検討してほしいと報告がされた。小林主査の報告及び主な意見は、以下のとおり。

<小林主査報告>

- ・大学ポートレートの有意点は、私立大学に比べて一般的にまとまった情報が少ない国立大学についての情報が掲載されている点のほか、国公私立の大学を同じ条件で閲覧できる点である。
- ・その一方で、高校生の保護者は進路指導を教員に頼ることが多いため、進路指導教員や高校生が使いやすいウェブサイトであることが重要である。まだまだ見やすさに工夫が要するという意見が多数寄せられた。
- ・各大学の情報を一覧で閲覧できることが大学ポートレートに求められることではないかという意見があった。大学ポートレートはランキングにならないと強調してきた結果、一覧性が失われているという意見が多く出された。当日欠席となった黒田学園長からは資料により「公表に当たっては、画一的なランキングにならないよう、リスト化を避けペーパービュー形式とすること」という要望が出されているが、大学ポートレートに求められている一覧性は比較やランキングといった言葉で表されるものと異なるのではないかと意見が多く出された。また、大学間だけではなく、経年で情報を閲覧できることも重要ではないかという意見があった。委員としては、必要な情報を検索機能を利用して一覧で閲覧できるようにすることが非常に重要ではないかという趣旨の意見でまとまっている。
- ・様々な情報が大学ポートレートにある中で、正確な情報を提供することは意味があるが、サイトの使い勝手の問題によりなかなかアクセス数が向上しないのではないかと。一覧性は一つのメリットになるのではないかと考えている。例えば、どんな教員がいる、どんな奨学金制度がある、といった情報が一覧表示できればいいのではないかと意見が出た。
- ・小林浩氏からは高校生や保護者が非常に重要との意見があり、委員からも大学ポートレートについてさらにアナウンスすることが重要ではないかという意見が出た。アクセス数などについても具体的に数値目標などを設定した方がよいのではないかと意見があった。
- ・高校の先生にとっても大学ポートレートの表示内容は難し過ぎるとの指摘もあった。例えば、高校の先生から意見を収集し、見やすくすることも重要ではないか。
- ・スマートフォンやタブレット端末対応等でお気に入り登録等を利用することが重要ではないかという意見も出ていた。

<意見>

【田中委員】 広報について、高校を飛び越えて、直接高校生や保護者がアクセスできるような広報が望ましいという理解でよいか。

【小林主査】 田中委員が仰るほど具体的な議論をしたわけではないが、ボードの森崎委員（PTA 連合会理事・進路対策委員長）からは、ちらしを配布しても高校生や保護者には届かない旨の意見があった。高校生はウェブサイトをあまり見ずに SNS 等を活用しているため、その点も考慮した方がいい旨の意見が出た。

【田中委員】 高校教員への広報と同時に、高校生自身に届く広報が必要であると認識すればよいか。

【小林主査】 そのとおりである。

(2) 大学ポータルウェブサイトのモバイル端末対応について

金事務室長より、資料4に基づき、大学ポータルウェブサイトのモバイル端末対応について説明及び対応画面のデモンストレーションののち、意見交換が行われた。協議の結果、意見を踏まえ、国公立版については平成28年度中に実施することとなった。主な意見は、以下のとおり。

【田中委員】 スマートフォン等対応よりも、掲載内容に力を注ぐ必要があるのではないかと。大学名を知らないと大学の情報が出てこないという点は、ユーザに閲覧してもらえない理由のひとつになるのではないかと。例えば、授業料で検索すると授業料の一覧が出てくるといったことが必要である。ランキングにつながるという意見は、授業料が安いところに行かないのではないかとという危惧からの懸念だと思うが、決してそうではないはずである。大学教育の質と授業料の関係をユーザは知りたがる。したがって、レスポンシブデザインもよいが、力を注ぐべきは検索方法と考える。

【原田委員】 要するにユーザが利用する端末に対応できるようになる、ということだろう。今、まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する議論が始まっているが、大学や高等教育は非常に影響を受けるだろうと認識している。例えば小樽商科大学の場合は、小樽の産業は何だとか、人口動態はどうなっているかといった、地域の産業と大学がどのように関わっているかという情報を付加価値として出すことで、利用価値は相当上がるのではないかと。考慮していただけるとありがたい。

【村上委員】 モバイル対応については、大いに歓迎したい。PTA や高校の先生へのPR の場ですぐにサイトを確認できる。ポスターやビラにQRコードが掲載されていると思うので、広報に大いに役立つのではないかと。思う。

公立短期大学は参加率が極めて低いが、その理由の一つに費用の問題がある。モバイル対応によって負担額に影響があるのか。

【武市センター長】 参加費が別途必要になることはない。

(3) 大学ポータルウェブサイトの一覧機能追加について

金事務室長より、資料5に基づき、大学ポータルウェブサイトの一覧機能追加について説明があったのち、以下のとおり協議が行われた。協議の結果、一覧機能の追加について了承され、その詳細は大学ポータル運営会議に係る実務者協議会（以下、実務者協議会）等において引き続き協議することとなった。

【鈴木議長】実務者協議会はどのような意見があったのか。

【金事務室長】大学ポートレートのウェブサイトは活用しなければ意味がないということで、ユーザ目線で一覧機能を追加することが必要ではないかとの意見があった。また、大学ポートレート（仮称）準備委員会（以下、準備委員会）における論点整理では、ペーパービューで表示し、ランキング化につながらないようにする旨の記載があるが、今回の一覧機能が比較やランキング化につながる可能性がないかについて十分に議論する必要があるといった意見があった。このほか、大学ポートレートに求められていることが複数ある中で、一覧機能については、ひとまず国公立大学が揃って対応可能な機能にすべく、議論を進めていくのがよいのではないかといった意見があった。

【小林主査】同様の意見は、ボードにおいて黒田学園長からも資料中に示されていた。しかしながら、これはボード委員もおおかた同じ意見だったが、私としては、このまま何の対応もしないでいるとアクセス数が減少していく点を最も恐れている。付加価値を付けていく方法を考えなければならない。諸外国の類似サイトでは、ほとんどの場合に一覧機能を有している。当初はペーパービュー表示で始動したが、現状を踏まえると限界があるように思う。中央教育審議会でも高等教育のグランドデザインを考えるとというのが課題となっており、その中で大学情報の公開やそのために大学ポートレートを活用することについて盛り込まれている。ランキング化には十分考慮しなければならないと思うが、一覧機能を追加することについて、もう少し積極的に考えなければならない。

【日高委員】一覧機能を持つことがランキングに繋がらないような工夫は必要だと思うが、どのような項目を一覧にすれば機能するかが決め手だと思う。例えば全体の入学者数について、入学実数とするのか、定員を表示するのか。入学実数であれば、東京 23 区内の大学は定員管理が厳しくなっており、年度によってばらつきが出てくる。定員を超過した状態、あるいは定員割れが続いているように見えることもあり、注釈が必要。定員の場合も、ユーザからするとずっと同じ状況が続いているように見えるため正確な情報を把握しにくい。授業料及び費用に関しては、公開しなければならない情報なので問題ないと思う。進路については産業分野をどう定義するかが問題。就職希望者の就職率を正確に出すことができても、卒業者の就職率は必ずしも卒業生の進路を特定するものではない。文系の場合は進学したり資格試験の勉強をしていることもある。就職希望者の就職した割合と分布について定義をはっきりさせる必要がある。そうすればランキングに繋がらないと思う。

【水戸委員】大学改革を進めるためには、国民のニーズ、国民の信頼に応えなければいけない。そのためにも積極的に情報公開をしていくことは、既に大きな議論としてなされているところ。こうした中、大学ポートレートの取組には意味があり、国公立共通の情報公開としてどうあるべきかという観点で検討を進めていく必要がある。私は私立大学協会の代表という立場だが、私立大学は教育の質の改革に関して研究の質の引き上げなど、様々な取り組みをしているが、常に情報公開をしていかないと、なかなか国民の理解を得られず、公費負担の格差の是正も進まない。方向性としては、情報公開を積極的に進めていくことが必要だろうと思うが、ランキングの問題等についてどのような場あるいは形で反発を最小限に抑え込んでいくのかを考えなければならない。

一覧機能の項目で気になるのは減免額。国立大学は全国で1学年あたり20万人に満たないにもかかわらず、330億円程度の予算が平成29年度に予定されている。その一方で、私立大学は1学年あたり約50万人のうち約5万8,000人、86億円しか減免対象として想定されており、格差は金額にして4分の1となり、減免額を一覧表示すると国立私立間の差が出てくるのではないかと。

【相良副議長】 高等教育評価機構で認証評価機関の仕事に携わっているが、大学ポートレートを有効に利用することによって認証評価に係る各大学の負担を低減させていきたいと思っている。

【奥野委員】 大学ポートレートの運営に関して何年も議論を重ねてきており、一覧機能について議論できるようになったことは評価したい。ただ、これまでも大学ポートレートの各項目については、公表するか否かの議論をしてきている中で、一覧表示する項目についても改めて同様の議論をすることに違和感を覚える。議論を経て公開することとなった情報については一覧表示もできることとして、ポジティブに進めていけばよいのではないかと。

【田中委員】 大学ポートレートを認証評価に役立てるだけでなく、認証評価結果を大学ポートレートに掲載するかについても検討する必要がある。大学基準協会が当初認証しなかった大学について、その後の大学の改善を受けて認証することがあるが、その内容は表に出ないため、生徒はその点を知らずに大学を選ぶことになる。認証しなくても罰則等があるわけではないが、大学業界だけでなくステークホルダーに対しても知らせるべきではないかと。

【原田委員】 画面上で2大学の情報を並べてしまえば、ユーザは比較できてしまう。大学の情報をプリントアウトしてエクセル内で整理しても同様。お気に入り機能において一覧表示するということだが、情報を制限して一覧表示することに価値があるのか分からない。

【武市センター長】 技術的には、お気に入り機能に登録しなくても、幾つかの画面を表示することができる。しかし大学ポートレートの当初の方針として、そのようなことを行わないとしていたため、今回はお気に入り機能内で一覧表示することとしている。

【小林主査】 この点は準備委員会において何度も議論した問題である。大学の各ページをクリックしていけば知りたい情報に行きつくが、現実的ではない。ユーザの立場に立ち、例えば寮のある大学だけを出したいなど、そのような機能を持たせたいということが一覧機能の趣旨と考える。ステークホルダーとして保護者や高校生を想定しているのだから、こういった機能が必要と申し上げてきた。

【木谷常務理事】 一覧機能は、特定の情報を見たい時にユーザにとって便利だろうと思う。将来的に、ユーザが見たい情報について拡張することもあり得るのかなと思う。

最も気になるのは、一覧表示する前にユーザは大学を選択しなければいけない点。大学の検索機能を充実しなければならない。特定の資格がとれる大学で絞り込むなど、その上で大学を見ていくと思う。これまでにその点に関する議論はあったのか。

【武市センター長】 検索機能の充実に関しては、これまでも議論があった。例えば、特定の外国語を指定しても、その言語を学べる大学が表示できないといった問題がある。検索機能の充実に向け、改善を検討しているところ。アクセス数が多ければユーザが求める検索がどういったものかについても把握できる。現段階では、どのように検索機能を充実させるかが課題の一つ

と考えている。

【堀野室長】 情報公開については積極的に行って行かないと、大学を応援する声が増えないのではないかと思う。大学自身のためにやるのだという意識で議論していただけると幸いである。国会周辺の議論等を聞いていても、小中高校と異なり、大学を応援する声が少ないと感じる。それは大学で行っていることが伝わっていないからだと考える。実態が以前とは違うことが十分に伝わっていないこと、期待されるパフォーマンスに至っていないことの両方が理由になっていると思う。高等教育のグランドデザインを協議していくうえで、情報公開は大きなテーマの一つになってくる。

また、高校生や保護者はスマートフォンの検索に慣れている。条件を指定してパッと選ぶ時代なので、パッと調べて思うような情報が出ない場合はサイトを離れてしまうのが実態だと思う。そのようなことを踏まえ、公開できるか否かについて、あるいは見せ方について議論いただきたい。

【鈴木議長】 大学自身が積極的に情報を公開する必要が出てきたと感じる。一覧機能の追加について、大学ポートレート運営会議（以下、本会議）としては導入する旨の決定をしたいと思う。どのように導入するかについては、実務者協議会で引き続き検討を進めていただきたい。

（４）大学ポートレートウェブサイト（国際発信版）の公表画面について

金事務室長より、資料6及び7に基づき、大学ポートレートウェブサイト（国際発信版）の公表画面及び公表画面階層（案）について説明があった。主な意見は、以下のとおり。

【原田委員】 諸外国との高等教育の制度の比較といった情報は掲載するのか。

【武市センター長】 現時点では、日本の制度のみを掲載することを想定しているが、当機構では諸外国の制度についても報告書等を出しているため、掲載することは可能である。

【原田委員】 デグリーのレベル等をどのような定義とするのか。英語表記の問題もあるため、標記等を統一していただき、国際的な視点でサイトを見たときに分かりやすくできているとよいと思う。

（５）その他

金事務室長より、資料8及び9に基づき、大学ポートレートによる教育情報の公表状況について報告があり、国公立の参加状況及び国公立のシステムへのアクセス件数について説明があった。主な意見は、以下のとおり。

【奥野委員】 アクセス件数については、4月頃からあまり増えていないという見方が最も適切だと思う。モバイル対応であったり一覧機能であったり、とにかく工夫が必要だと理解している。どのような一覧機能とするかの方針を本会議で決めなければならないということだが、これまでの議論の過程を考えれば、現時点で積み上げてきたものの範囲で何とかするほかはないと思う。大学ポートレートを評価したい気持ちはあるが、ステークホルダーの範囲が広く想定される中で、ひとまず受験生や保護者をターゲットに絞った結果が現状である。

【武市センター長】 当初から様々な情報を大学ポートレートに盛り込むという意見があったものの、大学の情報をすべて大学ポートレートに含めるのはほとんど不可能である。そのため、大学ポート

レート データを活用してもらい仕組みも検討していきたい。その中で、公開情報の活用についても各委員の意見を参考にさせてもらいたい。

【奥野委員】 大学ポートレートのような IT で作られたシステムは、3 年程度しか持たない時代であり、大学ポートレートの始動時とは状況が変わっている。特に情報公開については、このことを我々もう少し認識して、利用方法や広報を考えていかなければならないと思う。また、大学ポートレートを認証評価に活用することはぜひ進めてもらいたい。もし認証評価に活用できないのであれば別の活用方策を考えるといったように、とにかく情報の公表・活用を積極的にやっていかなければ大学教員の意識も変わらないし、社会の認識も変わらないのではないかと思う。

【田中委員】 参考資料 3 において、大学ポートレートの存在を高校教員の 61% が知らなかったというデータがあるが、「なんとなく聞いたことがある」といった回答を合わせると 80% 以上になる。使い勝手以前に、そもそも存在を知られていないのではないか。大学ポートレートのサイト内容を広報する前に、大学ポートレートそのものについての広報方法を考えるべきだと感じた。

【村上委員】 参考資料 3 を見て、予想以上に存在を知られていないと思った。知られていなければ存在しないことと一緒に思う。「よく使っている」と「使ったことがある」が 10% 未満というのはひどすぎる。大学ポートレートの運営側から PR することは大事だと思うが、参加大学のウェブサイト等にバナーを設置してもらうのはどうか。

【武市センター長】 現在もバナー設置はお願いしているところである。このほか、国立大学に関しては各大学が発信している情報を一覧にして公表し、大学の情報を得たい人が大学ポートレートのサイトにアクセスできるような仕組みも試みている。それによって僅かではあるがアクセス数も増えている。

このほか、今後の予定として、平成 29 年 6～8 月頃に大学ポートレート運営会議（第 7 回）及び平成 29 年度大学ポートレートステークホルダー・ボードの開催を予定しており、大学ポートレートステークホルダー・ボードでは平成 28 年度に引き続き有識者からのヒアリングを実施する予定である旨の説明があった。また、同年 8 月頃に国公立大学等を対象とした国際発信に関する説明会を開催する予定である旨の説明があった。

以上